**(4) 水道施設・管路の耐震化及び経年化の状況、鉛製給水管残存状況**

令和4年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は43.4％、配水池の耐震化率は66.2％、基幹管路の耐震適合率は42.3％と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和５年度末の浄水施設の耐震化率は31.4％、配水池の耐震化率は52.0％、基幹管路の耐震適合率は52.0%となっている。一方、管路経年化率※は36.3％となっている（P.48～50参照）。

令和4年度末における全国の全管路延長に占める耐震管の延長・割合と法定耐用年数（40年）超の管延長・割合は、表－10のとおりであり、大阪府は、耐震管の状況は全国平均以上であるが、法定耐用年数（４０年）を超えた管の割合は全国ワーストとなっている（表―8）。

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は管更新などにより減少しているものの、残存件数は依然として全国ワーストとなっている（表―9）。

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

* 管路経年化率：法定耐用年数（４０年）を超えた管路延長／全管路延長 × １００（％）

表―8　水道管路の耐震化及び経年化の状況（全国比較）　　【令和4年度水道統計より】



表―9　鉛製給水管残存状況（全国比較）　　　　　　　　　　【令和4年度水道統計より】

